

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい福祉センター幼児発達支援室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日	～	2026年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 70	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年12月1日	～	2026年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 23	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価実施期間	2025年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	今年度より、通所日数を選択できるようにしたことで、在籍児数が拡大しました。家庭の事情に合わせて利用できるため、利用しやすくなりました。	保護者講演会やおたのしみ会といった行事や健診等を、通所日以外の児でも参加できるようにしサービスが偏らないようにしています。 幼稚園や保育園・こども園と併用する児が多くなったため、電話連絡や訪問といった形で、在籍園との連携を行うようにしています。	通所日以外の児や保護者でも参加できるよう、取り組みは行っていますが、参加者はあまり多くない場合があります。取り組みについて、なるべく早く周知することや、内容に合わせて個別に働きかけるなどしていきたいと思います。 在籍園との連携については、これまで通り実施していきます。
2	経験豊富な保育士が、児童発達支援管理責任者とともに、経験をもとにしながら実効性のある個別支援計画を作成しています。 保護者アンケートでも、個別支援計画についての設問に、良い評価をしていただけたように思います。	児童発達支援管理責任者と保育士が、事前に内容を十分に検討したうえで職員会議に提案し最終的な決定を職員会議の中で行うという形で効率的な検討を行い、ケース数拡大に対応しました。	個別支援計画は令和6年度より、新しい様式を採用しました。作成マニュアルに関しては、旧来の物をベースにして個別支援会議の中で検討を進め、リニューアルを繰り返してきました。今後、児童発達支援管理責任者を中心として、個別支援計画作成マニュアル自体の検討を進めていきます。

3	<p>心理士や言語聴覚士、作業療法士がクラス指導や個別指導、職場内研修など様々な形で関わり、それぞれの専門性からの意見を上げる検討の場を持ち、クラスを担当する保育士とともに支援をすすめることができます。</p>	<p>職場内研修や保護者連絡会での講師、他機関への訪問支援、機関誌やおたよりの原稿作成など様々な場面で専門職の職員が活躍しています。</p> <p>その他に心理士や言語聴覚士は、通所頻度の高いクラスでは個別指導を行い、通所頻度の低いクラスでは、クラス指導に加わっています。</p>	<p>幼児発達支援室は、児童発達支援センターのため地域の中核的な機能を持つことが必要です。地域支援として行っている親子グループの活動への関わりや、こども発達支援事業所ネットワークでの事業者支援など通所見向けだけではない支援の充実を図っていききたいと思います。</p>
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>「床が硬そう」「部屋が狭い」といった施設に関するご意見をいただきました。</p>	<p>障がい福祉センターは平成15年に開設した施設となりますので、建物自体は老朽化が進んでおりいずれ、改修が必要な時期が来ると思います。</p> <p>療育プログラムの工夫や、療育プログラムによって活動場所を選択し、安全に活動していただけるようにしていますが、時期によっては使えるスペースが限定されることがあります。</p> <p>環境的な刺激を避けるために、ついたてを使うことがあります。見学している方の視線を妨げてしまう場合があるかもしれません。</p>	<p>年度末に物品の整理を行います。収納場所の決まっていない物品の収納場所を決め、収納後はその状態を維持できるようにしていきます。</p> <p>生活動線を整えることや、物の配置・収納場所・遊ぶ時の環境設定などについて、年度初めにクラス職員が検討し整えていきます。</p> <p>生活動線を妨げることのない室内環境の設定を行うとともに、室内の整理整頓により、活動スペースが十分にとれるようにしていきます。</p>
2	<p>保護者連絡会や保護者向け講演会といった保護者参加の行事を実施しています。保護者向けアンケートでは、「出席率が悪い」「あいさつ程度の交流になっている」といったご意見をいただきました。</p>	<p>行事開催の日程が、通所日でなくてもご参加いただけるようお知らせするとともに、会場を用意していますが、行事によっては周知するのが遅くなってしまうことがありました。</p> <p>幼稚園や保育園・こども園と併用利用している方が多くなり、就労している保護者も多くなり、参加が難しくなってきたという事情があると思います。</p>	<p>保護者参加のプログラムの日程を、年度当初にできる限り明らかにし、通所説明会等で参加を呼びかけます。</p> <p>保護者連絡会は伝達事項を説明・報告する場となります。交流の場としても認識していただけるように、グループワークや制作などの機会を持ち、互いの自己紹介をしたり、交流する経験をしたりして、保護者同士の関係性を深めていきます。</p>

<p>3</p>	<p>家庭への連絡方法が、電話・紙・対面しかありません。緊急連絡時には、幼児発達支援室が専用で使える回線は2回線しかないため全員に周知連絡するのに数時間を要しています。</p> <p>機関誌・おたより等は紙媒体で発行しているため、ペーパーレス化が進んでいません。</p>	<p>業務のICT化をすすめるため、保育業務支援システムを導入するべく準備をしておりますが、個人情報を保護するという観点からも、慎重にすすめており、予定より時間がかかっています。</p> <p>幼児発達支援室が発行している機関誌についてはメール等により電子化を進めることができました。</p>	<p>保育業務システムについては、今年度中に部分的な運用を始め、来年度には本格的な運用を行う予定です。今後は保護者に一斉連絡ができるようになります。</p> <p>保護者からの欠席等の連絡については、事前であれば、時間を選ばずに連絡していただけるようになります。</p>
----------	---	--	---